

ドル・コスト平均法

- 日々変動する金融商品を購入する場合、定期的(通常は毎月の同日)に**一定の金額**ずつ分けて商品を購入すること
- 投信をドル・コスト平均法で毎月積み立てる場合、基準価格が**高い**ときには**少なく**、**安い**ときには**多くの**口数を買うため、毎月**一定の量(口数)**を購入する場合と比較して、結果的に買付単価を平準化、つまり均すことができる

ドル・コスト平均法の買付例

基準価格の推移



ドル・コスト平均法	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目	6ヶ月目	平均単価
購入口数	30,000	50,000	16,667	46,154	25,000	42,857	¥8,544
購入金額	¥30,000	¥30,000	¥30,000	¥30,000	¥30,000	¥30,000	

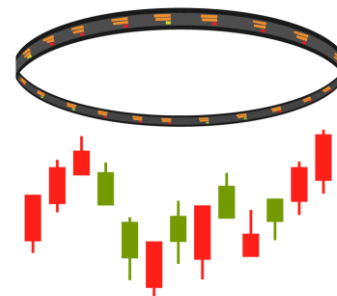
一定口数購入法	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目	6ヶ月目	平均単価
購入口数	30000	30000	30000	30000	30000	30000	¥ 10,750
購入金額	¥ 30,000	¥ 18,000	¥ 48,000	¥ 16,500	¥ 39,000	¥ 42,000	

ドル・コスト平均法の特徴

- 一度にまとまった資金で価格変動のある金融商品を購入した場合、高値づかみをしてしまう可能性もある



- 時間を分散することで、リスクの軽減効果が期待できる



主なメリットとデメリット

メリット

- 毎月少額の資金で積立投資ができる
- 時間分散効果により、一度で購入する際に高値づかみをするなどのリスク軽減できる
- 相場環境が悪い時には購入できる口数が増える

デメリット

- 短期投資に向かない投資手法
- 購入する商品によって毎月コストがかかる
- 全く価格が上がらない場合は資産が減るだけ

なぜドル・コスト平均法というのか

- ドルというのは、お金そのものを意味し、お金の原価を平均化する方法という意味
- 英国では**Pound-Cost Averaging** (ポンド・コスト平均法) という
- その他の言い方として特定の通貨名ではなく、**Unit Cost Averaging** (単位原価平均) とか、**Cost Average Effect** (原価平均効果) とも言われることがある